

# B—82 衣服寸法に關係のある身体周徑項目の年令的变化

—男女小・中学生について—

新潟大	○清水	薫
十文字学園女短大	古松	弥生
都立三田高	高部	和子
岡山女短大	劍持	和代

1. 本研究は、身体計測による基礎調査を行ない、主として周育項目を用いて成長期にある男女児の体型の年令的特徴を觀察したものである。

2. 被検者は、東京都内の某私立学校に在籍する健康な男女小・中学生合計 982 名で 1966 年 7～9 月に計測した。研究項目は、衣服寸法の設定に必要である胸囲・胸囲・腰囲・頭囲の 4 項目と胸囲/胸囲・腰囲/胸囲・頭囲/胸囲の示数值 3 項目、計 7 項目である。

3. 主な成果はつぎのようである。

a) 計測値について——男女とも、学年がすすむに従い胸囲・腰囲は顕著な増加を示すが、胸囲の増加は比較的小さい。増加の様相については、胸囲は小学校 5 年以後女子が優位になるが、腰囲は全学年にわたり女子が常に優位、胸囲は一般に男子が優位である。また頭囲の増加の様相は男女とも極めて緩慢である。

b) 示数值について——腰囲/胸囲は、男女とも学年のすすむとともに漸増の傾向を示し、また女子が全学年にわたりかなり優位である。胸囲/胸囲は、男女とも学年のすすむとともに漸減の傾向を示すが、女子の小学校 6 年以後の減少はやや著しい。すなわち、男女ともいずれの体型から漸次胸のくびれた体型に移行することがしられる。この傾向は女子においてかなり強いといえる。頭囲/胸囲は、学年のすすむに従い男女とも著しく減少する。